

「地域と学校の新しいカンケイ」～WIN WIN より Happy Happy～

【4月19日放送内容】

DJ：今月から始まりました新コーナー「地域と学校の新しいカンケイ ～WIN WIN より Happy Happy～」。

今回は、地域と学校の新しいカンケイについてお話をお伺いします。尼崎市の未来を担う子どもたちの学びや育ちを支えるための、地域と学校の新しい関係づくりについて、尼崎市教育委員会の社会教育課 地域学校連携推進担当の増田吉英（ますだ よしひで）さんにお話をお伺いしていきます。増田さんよろしくお願ひします。

増田：よろしくお願ひします。

DJ：さて、地域学校連携推進担当の増田さんは、どのようなお仕事をされているんですか。

増田：私は、地域と学校が「Happy Happy」の関係となり、共に地域の子どもたちを育てていくための仕組みをつくる仕事をしています。

DJ：そうなんですね。「Happy Happy」の関係は初めて聞きました。よく「WIN WIN」の関係という言葉は聞きますが、どちらもよく似た言葉かと思うのですが、どう違うのでしょうか。

増田：「WIN WIN」は元々、経済用語の一つで、取引が行われる際に交渉している双方が利益を得られるようになるという意味です。しかし、教育の場においては「損得」の感覚や見返りを期待するといったことではなく、支援していただいて「ありがたい」、支援することで、子どもや学校に喜んでもらえて「うれしい」という気持ちを大切にするという意味から、私たちは、学校と地域が「Happy Happy」の関係がふさわしいのではないかと考えました。

DJ：「Happy Happy」は、子どもや学校に関わる方々の気持ちを表しているんですね。増田さんが目指す「Happy Happy」の関係は、どのような関係なんですか。

増田：例えば、「地域が学校を支援したから、今度は学校が地域のためにしてほしい」「地域のイベントに教員が参加したんだから、学校の行事を手伝ってよ」といった「貸し借り」の関係ではなく、学校も地域も子どものために力を尽くすことで、「やりがい」「生きがい」「満足感」「感謝」などの思いが共有できる関係にしたいです。

DJ：それは非常に素敵な関係ですね。地域の方が子どもたちの支援をしてくださっているということですが、どのような支援をいただいていますか。

増田：登下校の見守りや学校の花壇の整備、防災教室、町探検など、尼崎市立の小中学校では、先生、保護者、地域の方が一緒になって子どもを育てています。

DJ：昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令されて、学校が休校になってしまい、6月から新学期が始まりましたよね。学校が再開してもいろんな制約があって、地域の方の支援も難しくなったのではないのでしょうか。

増田：そうなんです。昨年はとても大変な1年でした。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、子どもたちの活動が制限されたり、行事が縮小されたりするほか、学校中の消毒活動に追われながら教育活動が進んでいました。そんな中、少しでも先生方の負担を減らそうと授業支援を始め、校内の消毒活動や午前、午後の分散登校の見守りなど、コロナ禍でも多くの地域の方々が応援してくださいました。

DJ：地域の方の応援で、先生方もきっと負担が減って喜ばれたでしょうね。

増田：はい。応援してもらった子どもや先生方は、もちろんHappyですし、応援する保護者や地域の方は、子どもや先生方に「ありがとう」と言われてHappyというように、学校に関わるすべての方がHappyな気持ちになれる取組になりました。

DJ：地域と学校が「Happy Happy」の関係になることが、「地域と学校の新しいカンケイ」なんですね。

増田：そうなんです。子どもたちの笑顔って本当にいいものですよ。私も学校を訪問した際に、地域のみなさんと子どもたちのふれあいを目にしますが、子どもたちの笑顔で地域のみなさんも笑顔になっているのを感じます。最初のきっかけは様々で「ちょっとだけなら」「子どもたちのためなら」と応援してくださった方々が、知らず知らずのうちにご自身が楽しくなったり、達成感を感じてくださっている様子を見かけることもあるんです。

DJ：そうなんです。子どもたちの笑顔を見て、きっと地域の方も応援して良かったと思われていらっしゃるんですね。

増田：そうですね。このように、子ども、先生、保護者、地域の方々といった学校に関わるみなさんをHappyな関係にしていくことが新しいカンケイづくりだと考えています。地域と学校がパートナーとして、子どもたちをどのように育てていくのかという思いを一つにして力を合わせて活動し、地域総がかりで子どもの成長を支えられたらいいなと思います。

DJ：確かに、地域の方が学校に入る機会は少ないですね。では、これまでに「Happy Happy」の関係になった取組みなどはありますか。

増田：小学校の高学年になると家庭科でミシンや裁縫の授業があります。最近は若い先生が増えていて、ミシンの使い方に詳しい先生が少なくなっています。そこで、地域の方でミシンが得意な方に授業のサポートをしていただきました。子どもたちは、「丁寧に使い方を教えてもらえてうれしい!」、先生は、「大勢の子どもに丁寧な指導が行き届いてうれしい!」、「地域の方は、得意なことを生かして、子どもたちや先生の役に立ててうれしい!」、先生も子どもたちも地域の方もすべての方が「Happy」になりました。

DJ：本当にミシンの使い方って難しいですね。糸の掛け方も難しいし、縫っている間に針が折れてしまったり、下糸がなくなったりして、私も困ったことがありました。でも、困ったときに地域の方がサポートしてくださると、子どもたちも先生も助かりますよね。でも、ミシンの使い方に詳しい地域の方をどうやって探されたんでしょうか。

増田：尼崎市全ての小学校におられる地域学校協働活動推進員さん、私たちは、コーディネーターとお呼びしていますが、この方が学校のニーズを受け止めて、地域の人たちとの橋渡しを行っています。コーディネーターは、学校がお願いした地域の方で教育委員会が委嘱しています。ミシンのときもコーディネーターが地域の方にお声掛けされ、手伝ってくださる方を見つけることができました。

DJ：そうなんですね。「Happy Happy」の取組みについて、少しずつ分かってきました。今後は、どのように進めていこうと思われていますか。

増田：これまで地域の方々には、盆踊りやお祭りなど、地域活動の一環としていわゆる「学校の外」で子どもたちに関わっていただいていたと思います。これからは、学校に入って学校の環境整備や授業の支援など、「学校の中」で子どもたちと関わっていただきたいと思います。地域の方に学校の子どもたちのことをよく知っていただくことが、連携をスムーズにする上で大事だと思います。

DJ：地域の方が、学校に入ってもいいんですか。なんか、登下校のとき以外は門が閉まっていて、子どもがいないと入りづらい雰囲気があるんですけど・・・。

増田：そうなんです。学校に入りにくいという声をよく耳にします。これまで学校は、地域の方々にとって入りにくい場所であったためか、地域の方は学校や子ども様子をご存じなく、まだまだ「学校の中」で行われる活動は進んでいません。

DJ：そうなんですね。「学校の中」の活動を充実させ、地域の方との連携を深めていくことが、今後の課題なのですね。

増田：はい、そうなんです。新しいカンケイづくりの拠点は学校にあると考えています。地域の方に学校に来ていただき、授業支援や学校環境整備などで関わっていただくことで、学校や子ども様子が見えてきて、「学校ってがんばっているよね。」「先生たち、結構大変だよね」と感じ、「学校を助けてあげたいな」という気持ちから関係が深まり、地域の方々が「真の学校の応援団」になってくれることを願っています。

DJ：学校と地域がお互いのことをよく知るためにはどうすればいいのでしょうか。

増田：学校と地域の新しいカンケイを目指し、尼崎市では学校と地域で子どもを育むためのネットワークづくりを進めており、学校を支援するボランティアのネットワークを「Happy 応援ネット」と呼んでいます。学校を核として、PTA や自治会など地域のみなさんの“つながり”を大切にしながら「Happy 応援ネット」を広げていきたいと考えています。「Happy 応援ネット」では、学校と地域の方々が集まり、「学校は何に困っているのか、子どもたちにどんな支援が必要か」を話し合っています。そんな話し合いを通じて、お互いのことを知る事が出来るのではないかと思います。

DJ：地域と学校がいろんな話をする事で、お互いのことを少しずつ理解していくことが大事なのですよ。では、最後に地域の方に関わっていただくことで、どんな力を子どもたちに身につけてほしいですか。

増田：将来、子どもたちが社会に出たときに必要な力は、「コミュニケーション能力」や「主体性」や「チャレンジ精神」ではないでしょうか。子どもたちにとって学校内だけの人間関係だけでなく、地域の方といった多様な方と関わっていき、学校だけでは体験できない活動の中でコミュニケーション能力や主体性、チャレンジ精神を育てていくことが大切だと思います。少子化社会と言われて久しいですが、逆転の発想で、少ない子どもの成長を大勢の大人で支えることができる社会とも言えます。将来を担う子どもたちに、豊かな経験や大勢の大人に見守られている幸福感を与えたいですね。そのための方法や作戦がまだまだありますが、それについては次の機会にお話しさせていただきます。

D J：分かりました。次回は、尼崎市の小学校で行われている「子どもたちの学びや育ちを支える様々な活動」や「地域とともにある学校」についてご紹介いただきたいと思います。今回は、「地域と学校の新しいカンケイ」について、尼崎市教育委員会社会教育課地域学校連携推進担当の増田吉英さんにお話をお伺いしました。増田さん、どうもありがとうございました。

増田：ありがとうございました。

D J：それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに。